

個人投資家の皆様へ

2026年2月21日

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれます。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに当社が計画・予測したものです。実際の業績などは今後の様々な条件・要素により、この計画などとは異なる場合があります。この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

1. はじめに
2. 歴史とコア事業
3. 決算セグメント
4. 中計2027と直近の業績

- ✓ **理研ビタミンは天然物の有効利用と独自の技術で豊かな暮らしに貢献する企業**
- ✓ **食品・改良剤・ヘルスケアの3分野で幅広い価値を提供**
- ✓ **国内では持続的な成長を目指し、海外では足元課題に対応しつつ体制を強化**

東証プライム市場上場の食品メーカー

商号	理研ビタミン株式会社
設立年月	1949年 8月
資本金	25億3,700万円
連結売上高	955億円
従業員数	997名（連結1,858名）
事業内容	家庭用食品、業務用食品、加工食品用原料、食品用改良剤、 化成品用改良剤、ビタミン類などの製造・販売
拠点数	国内12（本社、さいたまオフィス、支店5、工場5）
連結子会社	国内4、海外8



（2025年3月末現在）

本社外観（UR都市機構提供）

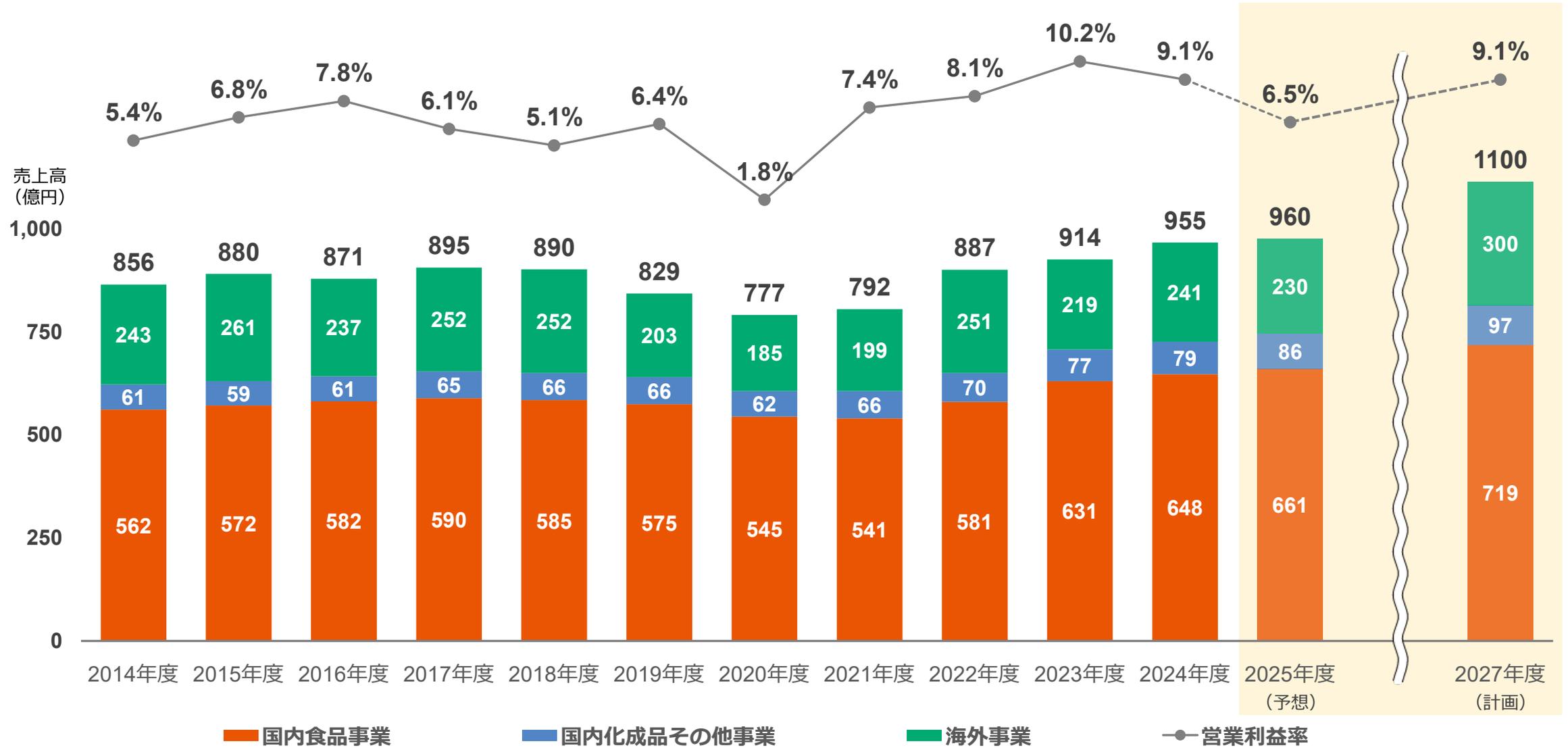
企業理念

**天然物の有効利用を図る技術と商品で、
人々の健康と栄養に寄与し、社会に貢献する**

経営理念

**社会に対し、食を通じて
健康と豊かな食生活を提供する** 他、全5項目

売上高・営業利益率推移



- 前中計期間の株価上昇率はTOPIXをわずかに上回る
- 足元ではPBR1倍割れは解消も、PBR・PERとも市場平均は下回る



※2022年3月31日終値（当社株価：1,677円、TOPIX：1,946.40）に対する上昇率

1. はじめに
- 2. 歴史とコア事業**
3. 決算セグメント
4. 中計2027と直近の業績

理化学研究所の天然ビタミンA事業が原点



▲ビタミンA製品のポスター

- 戦前、理化学研究所が研究成果を製品化する事業会社を多数設立
- その一社から天然ビタミンA事業を引き継ぎ理研ビタミン油(株)※を設立（1949年）

※1980年、理研ビタミン(株)に社名変更

設立当初は

天然ビタミンAメーカー

魚の内臓からビタミンAを抽出・精製・濃縮



合成ビタミンAの台頭により多角化路線へ

1950年代



海外メーカー

合成ビタミンAの
量産に成功

大量

安価



事業継続の危機

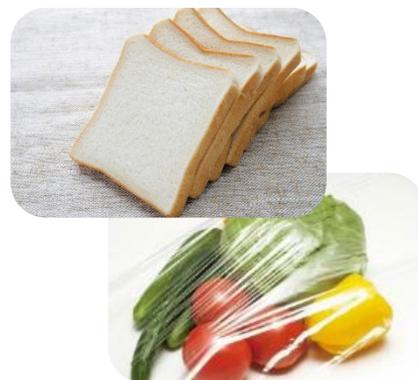
■ 天然ビタミンA事業で培ったもの

- 有効成分の抽出・精製・濃縮技術
- 水産関係者との人脈
- ビタミンに関する知見

これらを活かして新規事業を模索

天然物の有効利用と独自の技術で多角化

改良剤



大阪工場で高純度の乳化剤「蒸留モノグリセライド」の量産を実現（日本初）

分子蒸留技術※

※ビタミンAの精製・濃縮技術

- 多くの用途を開発
- 化成品に応用
- 多様な改良剤へ

食品



- 当時は商業捕鯨が盛ん
- 鯨肉の加工後に残った肉をエキスに利用



即席麺のスープ

抽出・精製・濃縮技術



魚の内臓



ビタミンA

3つの製品分野で事業を展開

食品

- 海藻
- エキス・調味料
- ドレッシング



主な競合

- 国内の調味料メーカー
- 国内の乾物メーカー

改良剤

- 食品用改良剤
(乳化剤、ビタミン、色素)
- 化成品用改良剤

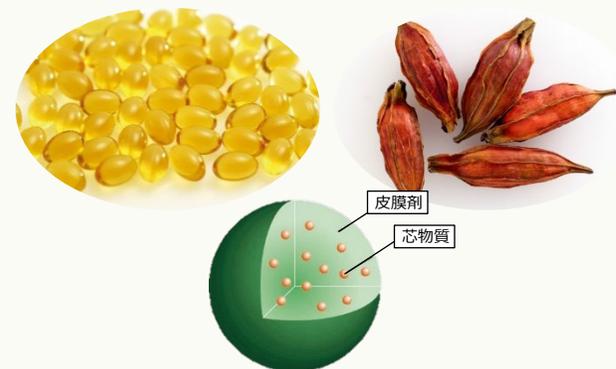


主な競合

- 国内外の油脂メーカー
- 国内外の化学メーカー

ヘルスケア

- ビタミン
- 機能性食品用原料
- マイクロカプセル



主な競合

- 国内外の化学メーカー
- 国内の健康食品原料メーカー

エキス・調味料、海藻類、ドレッシング

食品

ノンオイル
ドレッシング



シェアNo.1

インスタント
わかめスープ



シェアNo.1

ほたてエキス



シェアNo.1

家庭用国産
乾燥わかめ



シェアNo.1

スーパーなど向け

家庭用商品



外食産業・学校給食・産業給食向け

大容量品や家庭用にはない商品群をラインナップ



加工食品メーカー・コンビニ向け

ニーズに合わせ、調味料などを原料として供給



ラーメンスープ



スナックシーズニング



おにぎり用わかめ

海藻の種苗や陸上養殖、ブルーカーボンなど多面的に研究



わかめの種苗（独自方式）



海藻の陸上養殖施設「陸前高田ベース」



昆布の養殖試験（ブルーカーボン関連）

今の事業を支える研究

時間軸

→ 将来の成長につながる研究

乳化剤、ビタミン（酸化防止用）、色素など

改良剤

食品用乳化剤



シェアNo.1

クチナシ黄色素



シェアNo.1

食品用改良剤



食感改良、老化防止

パンをふんわりとした食感に
時間が経っても硬くなりやすく



ほぐれ性改善、酸化防止

麺をほぐれやすく
酸化を抑えて保存性向上



消泡、凝固調整

大豆を煮る際の泡を抑制
にがりですくまるスピードを調整



着色

天然由来の色素を扱いやすく加工
さまざまな食品に彩りを付与

化粧品用改良剤



防曇（ぼうどん）

食品用のラップや
農業用ハウスのフィルムが
水滴で曇るのを防ぐ



帯電防止

静電気の発生を抑制
埃の付着や電子機器への
影響を防ぐ



可塑（かそ）

硬い樹脂を柔らかくし、
成型加工しやすく



化粧品・トイレタリー向け

- ・クレンジング剤の
洗浄力アップ
- ・ハンドソープの増粘 など

おいしさ長持ちやフードロス削減に貢献

- パンへの改良剤の効果の例

老化防止効果



改良剤なし

改良剤あり

やわらかくしっとりとした食感を維持

ライ麦配合生地へのべたつき抑制効果



改良剤なし

改良剤あり

べたつきが少なく、生産効率を向上

ビタミン（栄養強化）、機能性食品用原料、マイクロカプセル

ヘルスケア



食品・健康食品・医薬品メーカー向け

機能性成分の供給や加工を通じて健康に貢献



ビタミンE（栄養強化）

- ・ 医薬品、健康食品

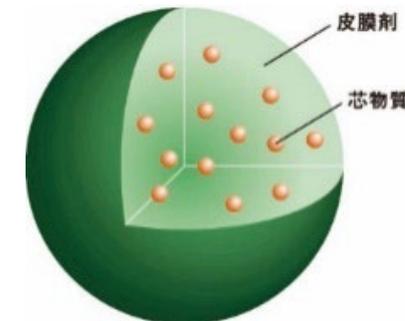
ビタミンミックス

- ・ 栄養補助食品
- ・ 完全栄養食



機能性食品用原料

- ・ 海藻や色素などから有効成分を抽出・精製・濃縮



マイクロカプセル

- ・ 有効成分の安定性向上
- ・ 香りの保持

こんなところに理研ビタミン



ヘルスケア

- ビタミン（栄養強化）*
- 機能性食品用原料
- マイクロカプセル

改良剤

- 乳化剤
- ビタミン（酸化防止）*
- 色素

売上高
構成比

食品

- エキス・調味料
- 海藻

その他

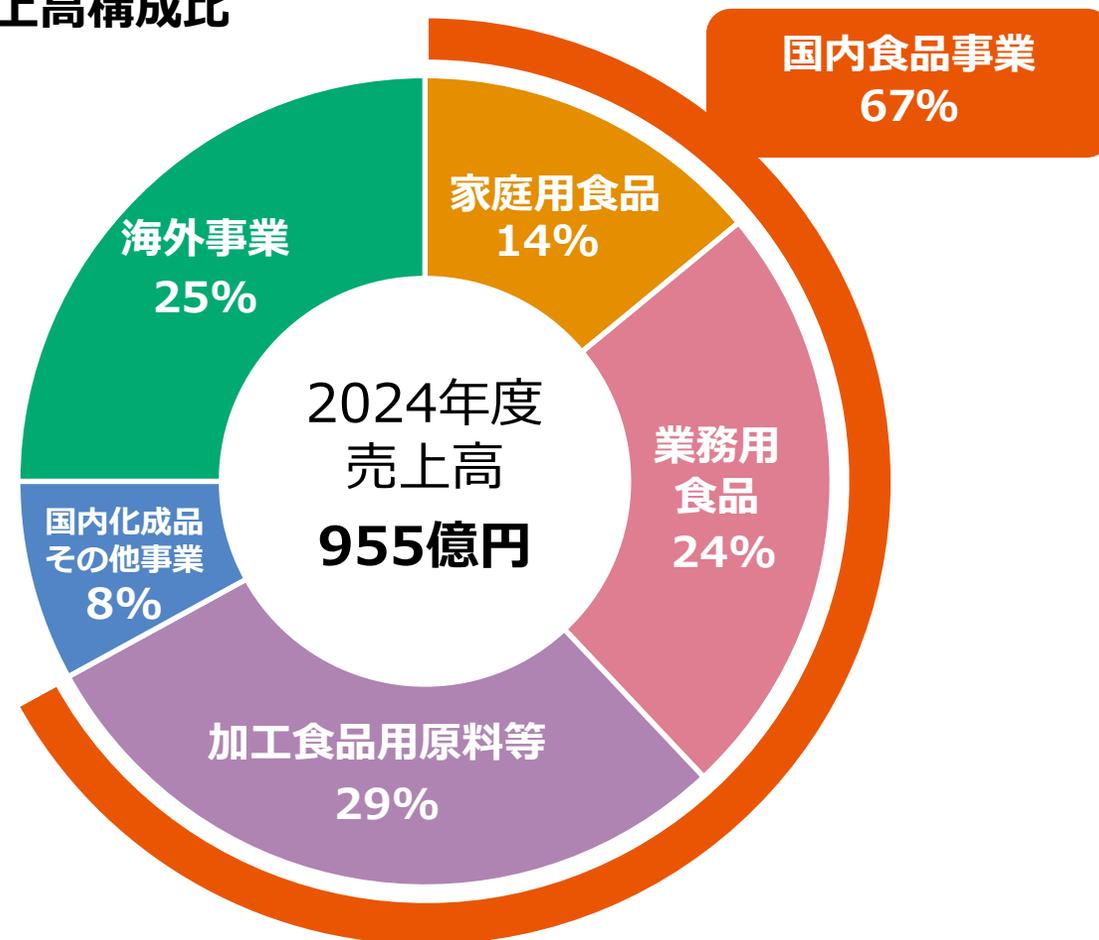
*ビタミンは用途別に実績が分けられないため、用途に関わらずヘルスケア分野の売上に含む

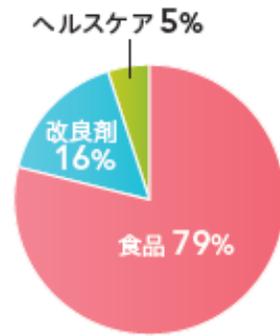
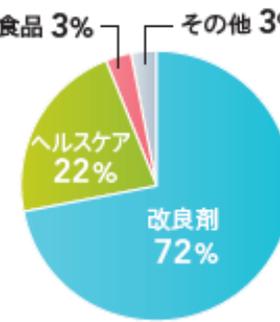
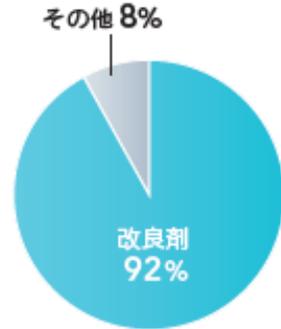
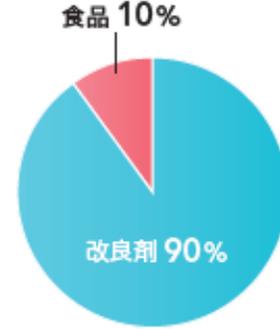
1. はじめに
2. 歴史とコア事業
- 3. 決算セグメント**
4. 中計2027と直近の業績

BtoBが8割以上、海外売上高は4分の1

セグメント	主な販売先
国内食品事業	
家庭用食品	<ul style="list-style-type: none"> ・ スーパーマーケット ・ ドラッグストア
業務用食品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業給食・学校給食 ・ 外食産業 ・ コンビニエンスストア ・ 加工食品メーカー
加工食品用原料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加工食品メーカー ・ 健康食品メーカー ・ 医薬品メーカー
国内化成品その他事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化成品メーカー
海外事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外加工食品メーカー ・ 海外化成品メーカー ・ 海外外食産業

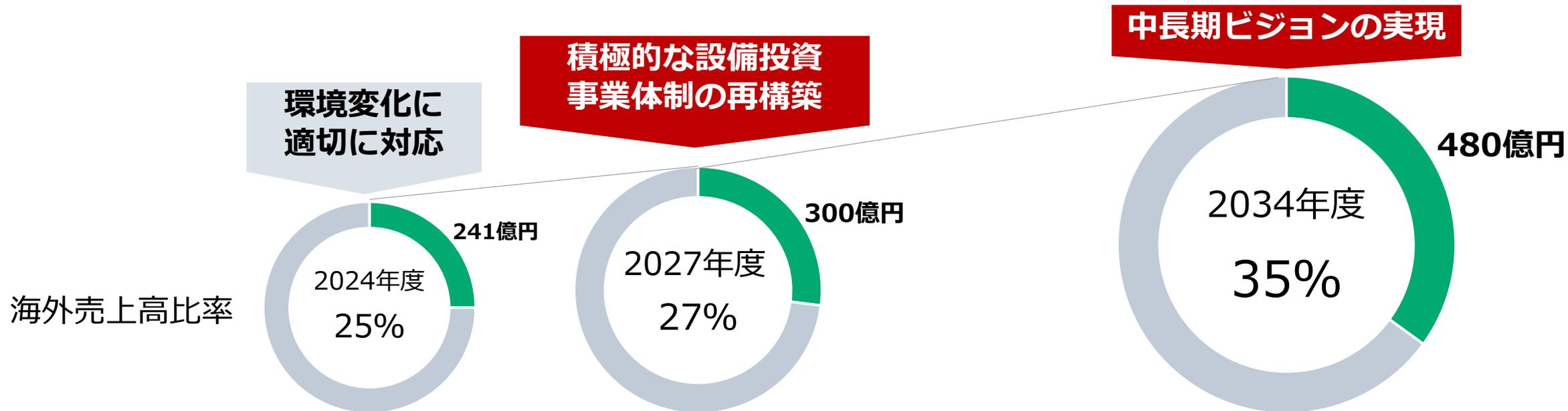
売上高構成比



	国内食品事業	国内化成品その他事業	海外事業		
主な販売製品	<p>家庭用食品</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リケンのノンオイル ● ふえるわかめちゃん® ● わかめスープ ● 素材力だし® 	<p>業務用食品</p> <ul style="list-style-type: none"> ● エキス・調味料 ● 海藻類 ● ドレッシング ● 食品用改良剤 ● ビタミン 	<p>加工食品用原料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 食品用改良剤 ● ビタミン ● 機能性食品用原料 ● マイクロカプセル 	<ul style="list-style-type: none"> ● 化成品用改良剤 ● 飼料用添加物 	<ul style="list-style-type: none"> ● 食品用改良剤 ● 化成品用改良剤 ● エキス・調味料 
製品分野別売上構成比※	 <p>食品 100%</p>	 <p>食品 79% 改良剤 16% ヘルスケア 5%</p>	 <p>改良剤 72% ヘルスケア 22% 食品 3% その他 3%</p>	 <p>改良剤 92% その他 8%</p>	 <p>改良剤 90% 食品 10%</p>

1. はじめに
2. 歴史とコア事業
3. 決算セグメント
- 4. 中計2027と直近の業績**

人口の変化に対応して事業体制を再構築し、持続的に成長する



売上高	955億円	1,100億円	1,350億円
営業利益	87億円	100億円	135億円
ROE	12.1%	10%以上	10~12%
設備投資額	104億円	250億円 + α	

- 人口減少に伴う市場変化、原料事情や人手不足に伴うコスト増に対応
- 加工食品市場の動きに影響を受けるが、市場全体より少し高い伸び率を目指す

■売上高 (億円)



■営業利益・率 (億円・%)

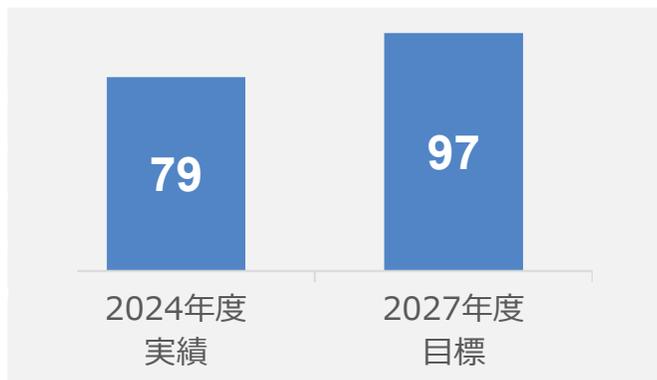


■サブセグメント別戦略／共通戦略

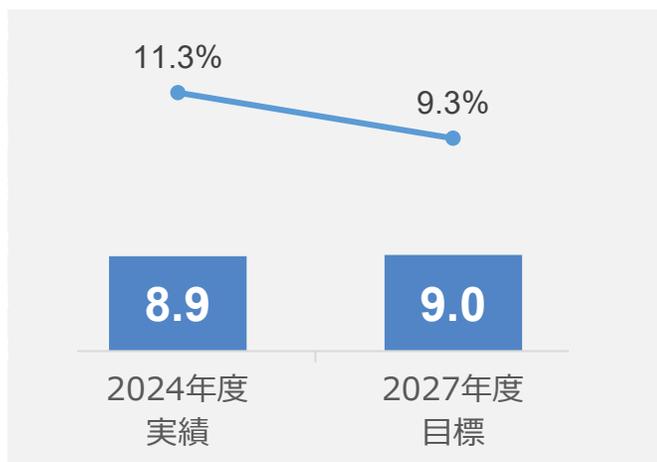
家庭用 +11億円	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 市場創造型商品の育成・開発 ✓ 既存商品群の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 適切な価格改定 ✓ 営業・開発ターゲットの絞り込み ✓ 品目数削減 ✓ 調達力強化 ✓ 省人化投資
業務用 +23億円	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中食・即食市場への提案 ✓ 人手不足の中で拡大する市場への提案 	
加工食品用原料等 +36億円	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 顧客のメインブランドへの導入 ✓ 調達不安定な原料の代替機能、生産効率向上、フードロス削減につながる提案 ✓ 健康関連市場への提案強化 	

- 化成品の国内市場縮小に対応し、得意分野に絞り込んだ市場の深掘り
- 海外展開する日系企業への提案強化

■売上高 (億円)



■営業利益・率 (億円・%)



■化学業界の事業環境



■事業戦略

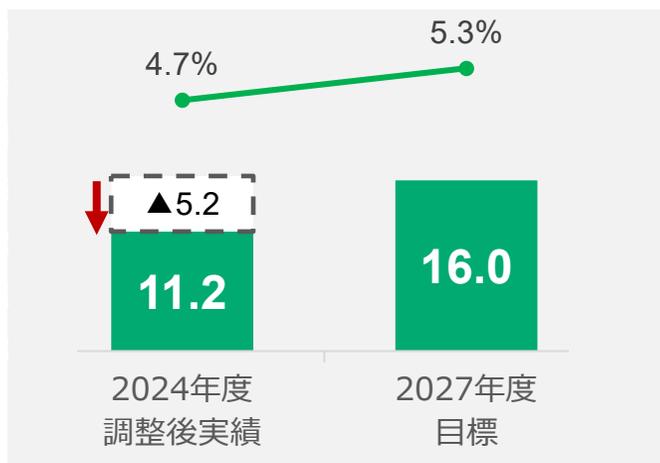
- ✓ 滑剤、防曇剤、可塑剤、帯電防止剤などの既存領域に営業・開発リソースを集中し、付加価値化を促進
- ✓ バイオマス原材料の強みを活かし環境配慮製品の拡大
- ✓ 非集中領域では他社との協業による効率性向上を図る
- ✓ 海外の化成品用改良剤営業・開発への支援拡大

- ・ コモディティからスペシャリティへの転換
- ・ 生産体制・営業体制・バックオフィス業務の支援強化を図る

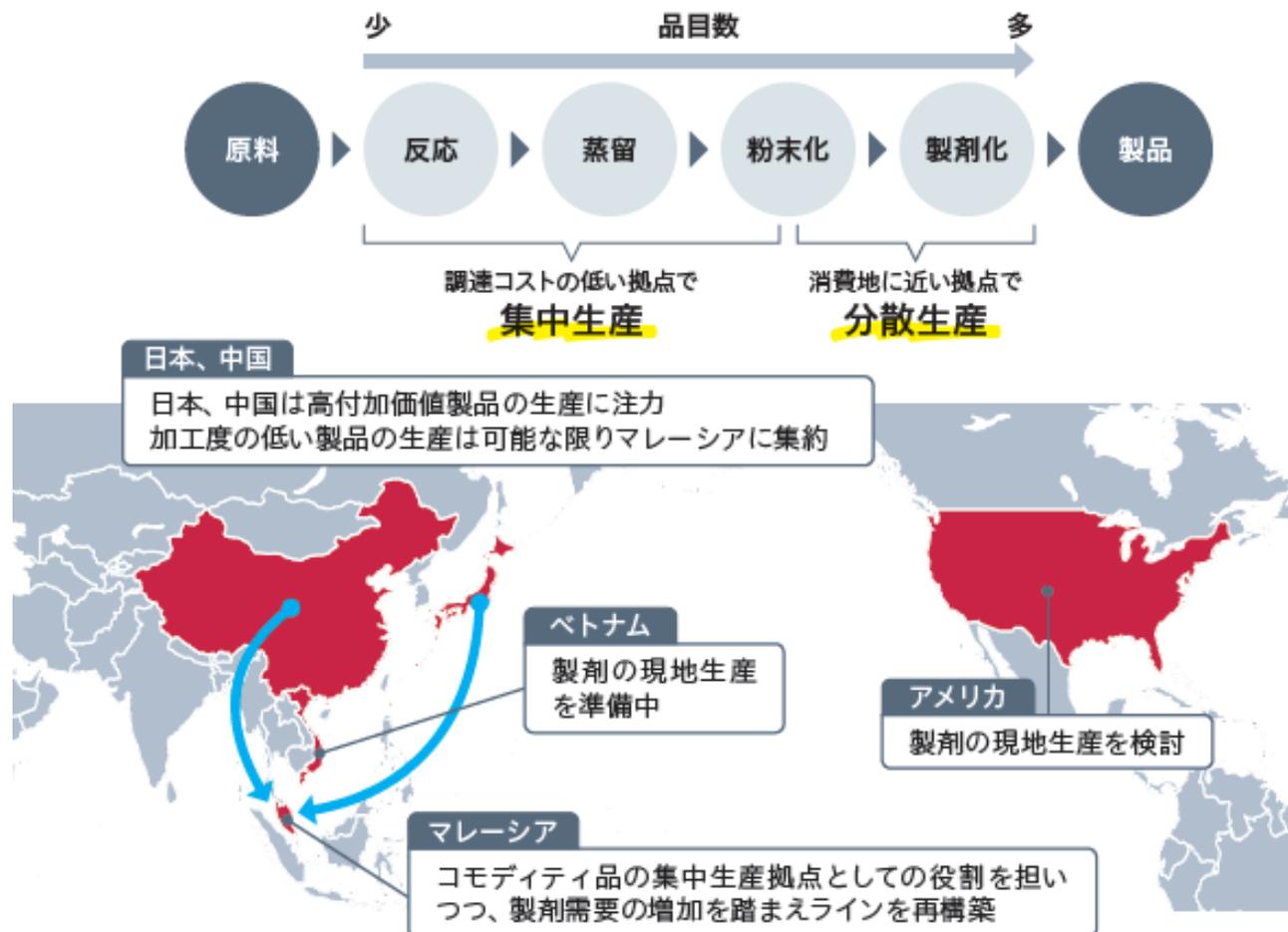
■ 売上高 (億円)



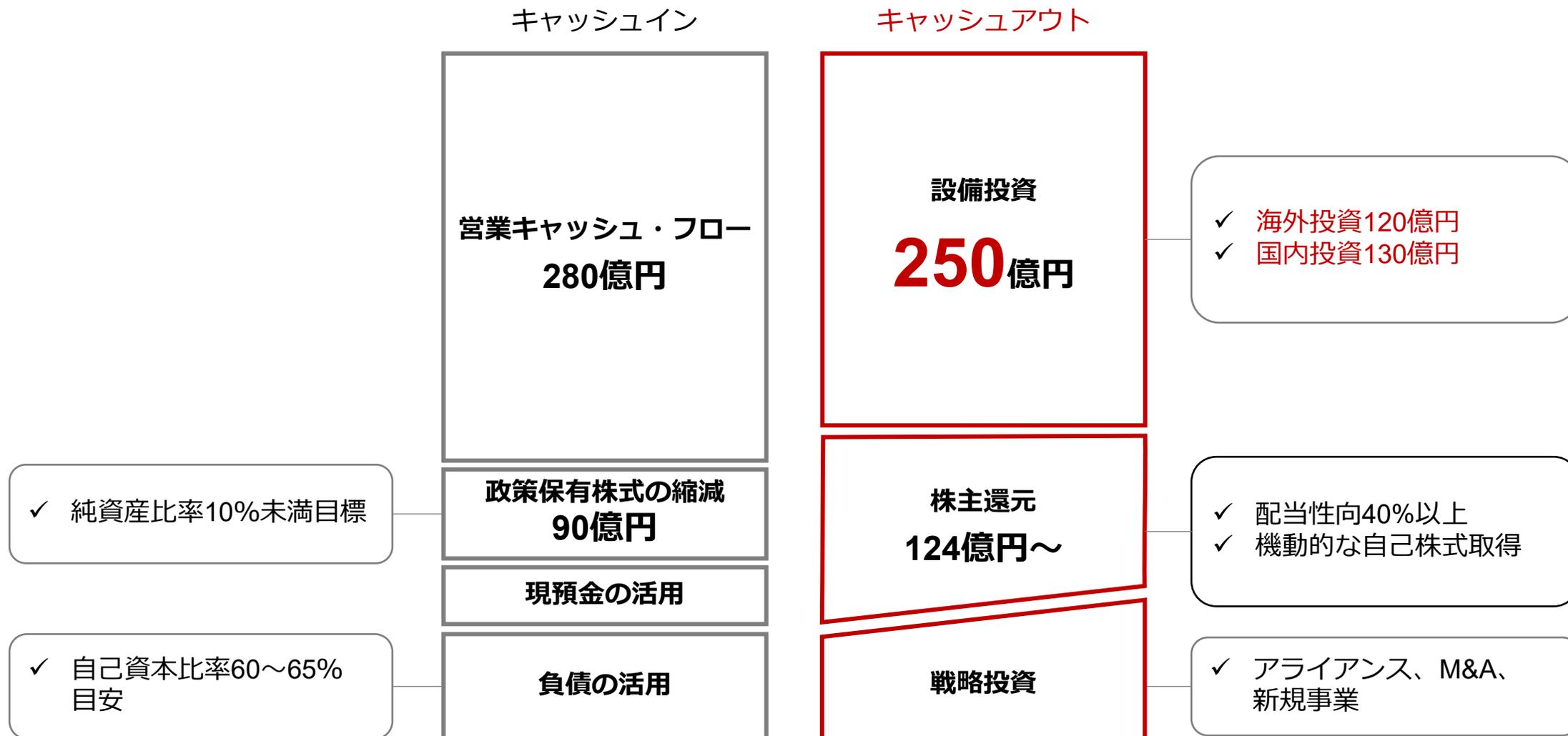
■ 営業利益・率 (億円・%)



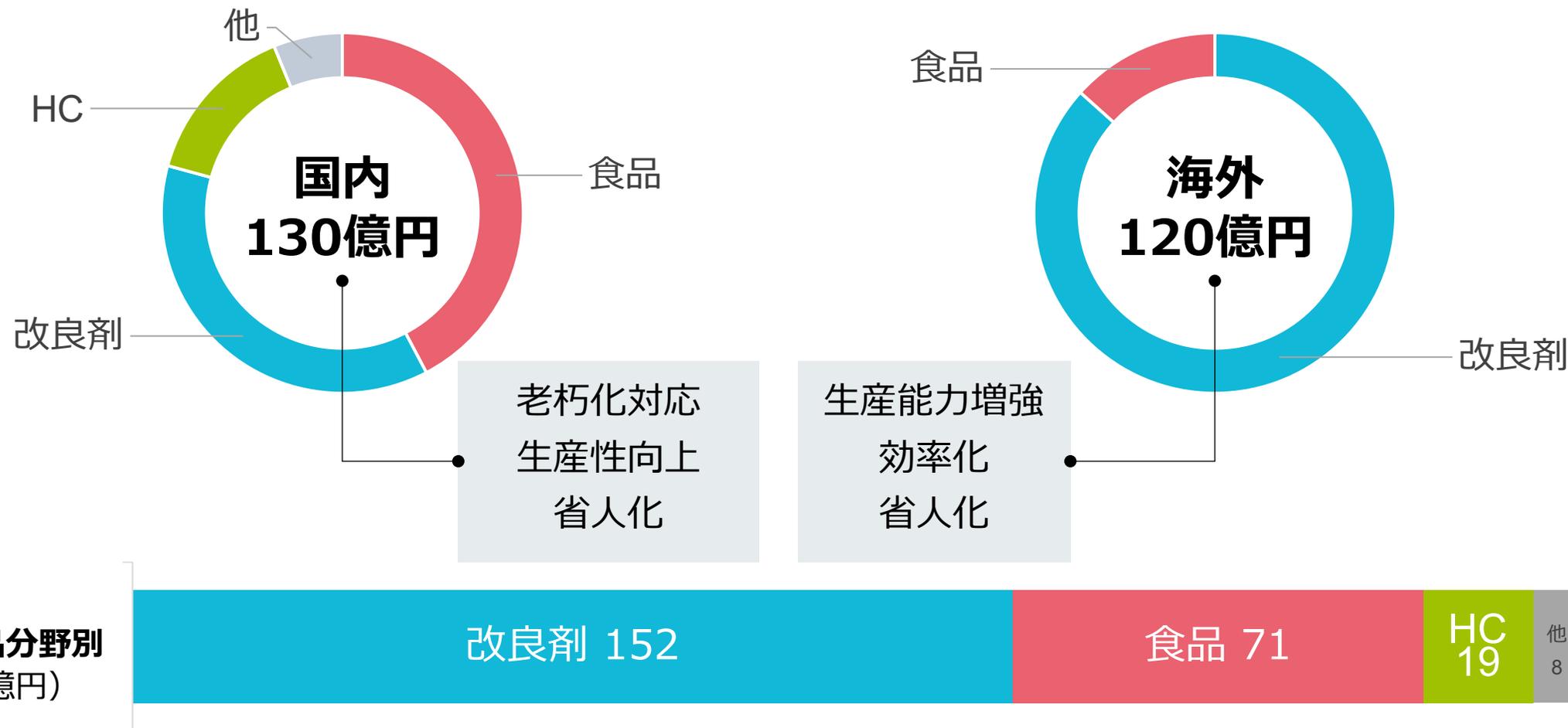
生産体制の再構築



営業CFと政策保有縮減の資金で、積極投資と還元強化



国内の基盤投資、海外の成長投資で最適生産体制構築を図る



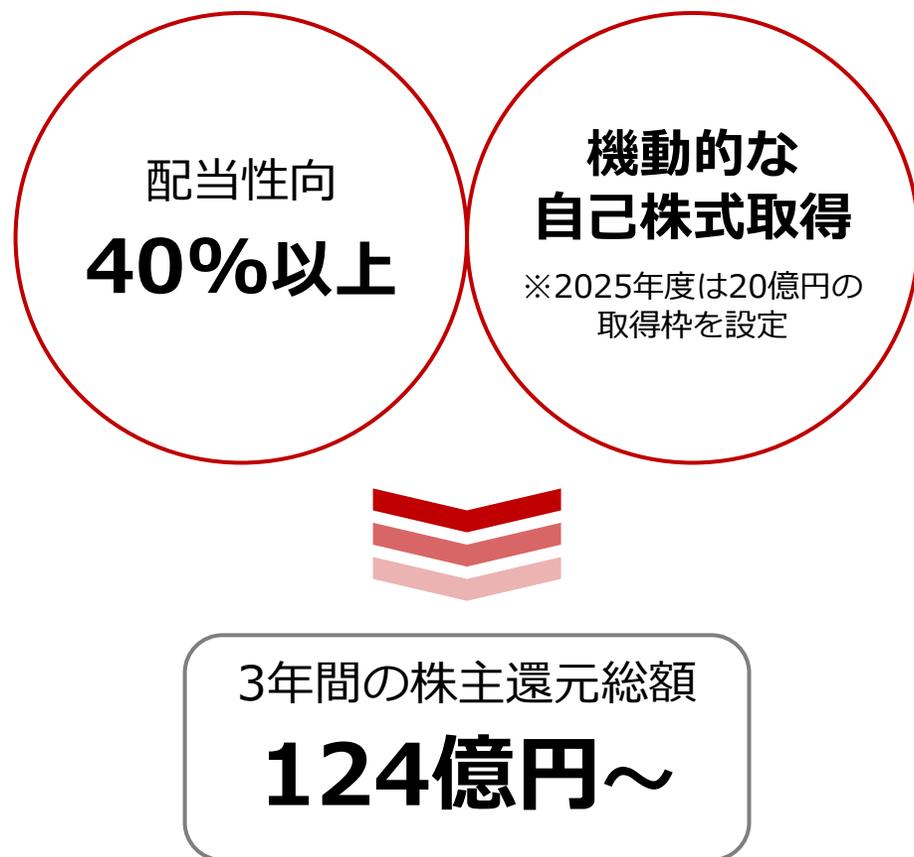
当社で最も古い工場（設立初期に天然ビタミンAを製造）
2018年当時の写真でも、当時の建屋が残る



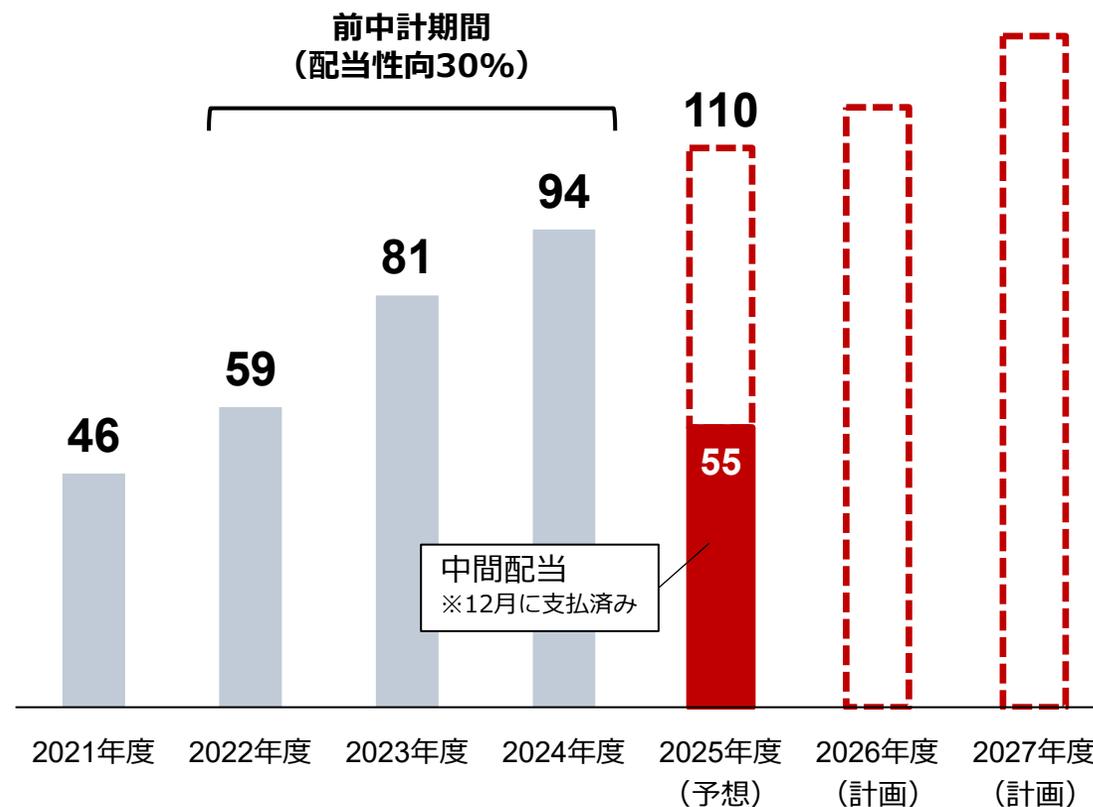


配当性向を40%以上に引き上げ

■ 中計2027の株主還元方針



■ 1株当たり配当金(円)の推移



保有株式数・保有期間に応じて自社商品を贈呈

- 贈呈回数は**年2回**
- 保有株式数および保有期間に応じて株主優待品がランクアップ

基準日	発送時期（予定）
3月31日	7月
9月30日	1月



2,000円相当の商品例

保有株式数・保有期間の基準

保有株式数	保有期間3年未満	保有期間3年以上
100株以上、500株未満	1,000円相当	2,000円相当
500株以上、1,000株未満	2,000円相当	3,000円相当
1,000株以上、3,000株未満	3,000円相当	4,000円相当
3,000株以上	4,000円相当	5,000円相当

条件の詳細は当社[ウェブサイト](#)をご覧ください

- 海外事業の不振と資産除去債務の影響により大幅減益の予想
- 資産除去債務による影響は来期以降縮小する見込み

(百万円)	2024年度 実績	2025年度 予想	増減額	増減率
売上高	95,582	96,000	+417	+0.4%
営業利益	8,724	6,200	▲2,524	▲28.9%
営業利益率	9.1%	6.5%	▲2.6pt	
経常利益	9,417	7,000	▲2,417	▲25.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	9,388	6,500	▲3,188	▲30.8%
ROE	12.1%	8.1%	▲4.0pt	

資産除去債務の見積りの変更の影響（※キャッシュを伴わない減益要因）

- 第3四半期において当社グループの保有する建物に含まれるアスベストに関して再度調査を実施し、アスベスト除去費用に関する資産除去債務の見積りを変更
- 見積りの増加額1,501百万円を変更前の資産除去債務残高に加算
- 当該見積りの変更に伴う通期の営業利益への影響額は▲880百万円の見込み

- 海外事業は減収による売上総利益の減少や人件費の増加などにより営業損失

(百万円)		2024年度	2025年度 業績予想	増減額	増減率
国内食品事業	売上高	64,821	66,100	+1,278	+2.0%
	営業利益	6,659	5,900	▲759	▲11.4%
	営業利益率	10.3%	8.9%	▲1.4pt	
家庭用食品	売上高	13,586	13,700	+133	+0.8%
業務用食品	売上高	22,755	23,000	+244	+1.1%
加工食品用原料等	売上高	28,480	29,400	+919	+3.2%
国内化成品その他事業	売上高	7,959	8,600	+640	+8.0%
	営業利益	895	820	▲75	▲8.4%
	営業利益率	11.2%	9.5%	▲1.7pt	
海外事業	売上高	24,199	23,000	▲1,199	▲5.0%
	営業利益	1,120	▲550	▲1,670	-
	営業利益率	4.6%	-		

資産除去債務の見積りの変更による影響を除く比較

- 資産除去債務の影響を除外すると、国内食品事業の営業利益は前年同期並み

(百万円)		2024年度	2025年度 業績予想 (調整後)*	増減額	増減率
国内食品事業	営業利益	6,659	6,750	+90	+1.4%
	営業利益率	10.3%	10.2%	▲0.1pt	
国内化成品その他事業	営業利益	895	840	▲55	▲6.2%
	営業利益率	11.2%	9.8%	▲1.4pt	
海外事業	営業利益	1,120	▲540	▲1,660	-
	営業利益率	4.6%	-		
調整額 (セグメント間消去)	営業利益	49	30	▲19	
連結合計	営業利益	8,724	7,080	▲1,644	▲18.8%
	営業利益率	9.1%	7.4%	▲1.7pt	

*資産除去債務の見積りの変更による影響を除外した参考値

- 中計2027で製剤中心のビジネスモデルへ転換を進める方針
- 想定以上に原体における競合の台頭が早く、体制整備の加速が必要

海外事業の製品群別売上構成比（イメージ）

コモディティ
↓ ↓
供給量増加により
価格競争激化

スペシャリティ
↓
景気低迷が
下押し要因

エキス
↗
市場は
拡大傾向

- ✓ **理研ビタミンは天然物の有効利用と独自の技術で豊かな暮らしに貢献する企業**
- ✓ **食品・改良剤・ヘルスケアの3分野で幅広い価値を提供**
- ✓ **国内では持続的な成長を目指し、海外では足元課題に対応しつつ体制を強化**

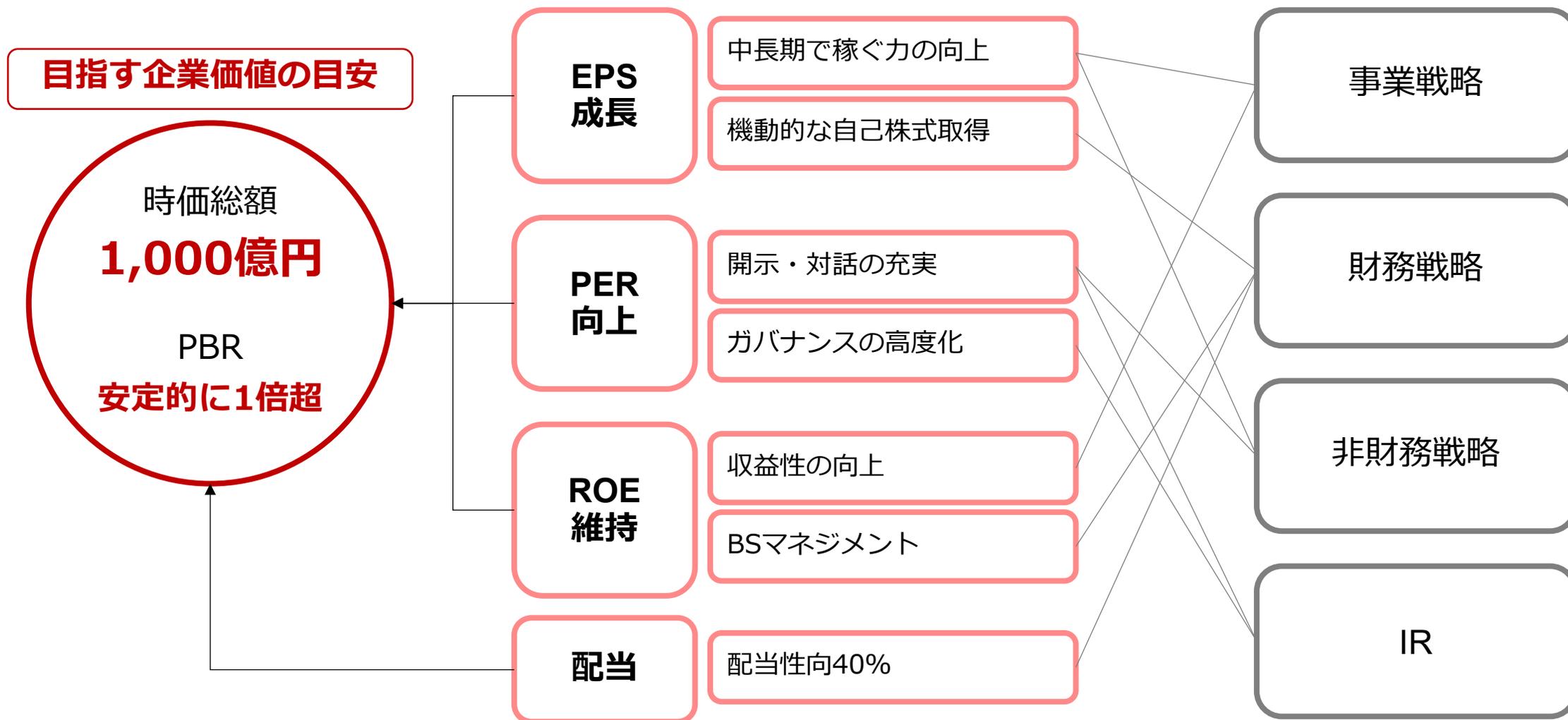
【理研ビタミンの中長期ビジョン】

**持続可能な社会を
スペシャリティな製品とサービスで支え、
成長する会社になる**

 **理研ビタミン株式会社**

補足資料

EPS成長・ROEの維持とIR活動により、期待成長率を上げていく



中長期ビジョン **持続可能な社会をスペシャリティな製品とサービスで支え、成長する会社になる**

8つのマテリアリティ

気候変動への対応

サーキュラー
エコノミー
(循環経済)
への移行

研究開発による
価値の創出

安全で安心な
製品の提供

健康と豊かな
食生活への貢献

レジリエントな
サプライチェーン
の構築

気候変動への対応

安全で健康的な
職場環境の整備

■ 技術を基盤とした価値創出

■ 地球環境への貢献

■ 人と社会のウェルビーイング

- 経営上の重点課題として8つのマテリアリティを特定
- 現在KPIの設定に向けた準備中

領域	マテリアリティ		関連するSDGs
技術を基盤とした 価値創出	研究開発による価値の創出	研究開発型企業として、持続可能な社会を支える新技術と新用途、新製品の開発を推進します。	 9.4 9.5
	安全で安心な製品の提供	安全で高品質な製品と、幅広いお客さまの安心につながる適切な情報を提供します。	 12.8
	健康と豊かな食生活への貢献	スペシャリティな製品とサービスの提供により、すべての人々の健康と豊かな食生活に貢献します。	 2.2
地球環境への貢献	気候変動への対応	GHG排出量の削減や脱炭素化に向けた製品の提供により気候変動の緩和に貢献します。また、気候変動への適応に向けた技術の開発を推進します。	 13.1 13.3  14.2
	サーキュラーエコノミー (循環経済) への移行	フードロスの削減や環境負荷低減に役立つ製品や技術により、サーキュラーエコノミーへの移行を推進します。	 12.2 12.3
人と社会の ウェルビーイング	レジリエントな サプライチェーンの構築	ステークホルダーとともに、人権、環境、生物多様性にも配慮したレジリエント（柔軟で強靱）なサプライチェーンの構築を目指します。	 8.7  12.2
	ダイバーシティ & インクルージョンの推進	多様性を尊重し、個々の能力を活かし伸ばすことで、持続的に成長できる企業を目指します。	 5.1 5.4 5.5  8.5  10.3
	安全で健康的な職場環境の整備	健康と栄養に貢献する企業として、心身ともに健康で、安心して意欲的に活躍できる安全かつ健全な環境を整備します。	 3.4  8.8